

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-192029
(P2003-192029A)

(43) 公開日 平成15年7月9日(2003.7.9)

(51) Int.Cl.
B 65 D 77/04

識別記号

F 1
B 65 D 77/04

テ-マコ-ト(参考)
B 3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-398042(P2001-398042)

(22) 出願日 平成13年12月27日(2001.12.27)

(71) 出願人 000238005
株式会社フジシール
大阪府大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号
(72) 発明者 柴崎 雅教
東京都中央区日本橋本町3丁目11番11号
株式会社フジシール東京本社内
(74) 代理人 100074332
弁理士 藤本 昇 (外5名)

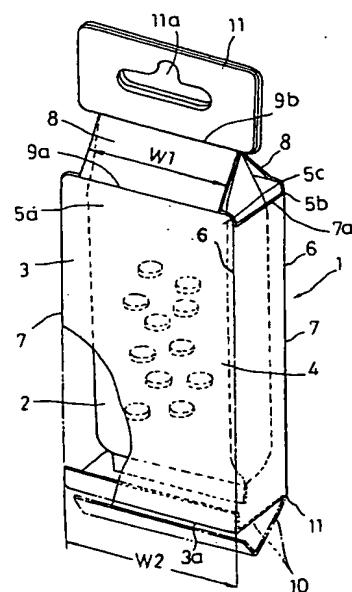
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 容器

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、再密封可能にして密封性を向上させ、携行時等に、各被収納物が不用意に移動して破損することなく、且つ、被収納物の保護性に優れた容器を提供することを課題とする。

【解決手段】 剛性を有する容器本体3と、可撓性を有するフィルムから袋状に形成され、且つ、複数の被収納物4が収納された中袋2とを備え、該中袋2は容器本体3内に収納されると共に、中袋2の一方側は容器本体3に固定され、該中袋2の他方の被収納物取り出し側には、被収納物4を取り出すための取出口部を閉塞するための再密封手段が設けられていることにある。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 剛性を有する容器本体(3)と、可撓性を有するフィルムから袋状に形成され、且つ、複数の被収納物(4)が収納された中袋(2)とを備え、該中袋(2)は容器本体(3)内に収納されると共に、中袋(2)の一方側は容器本体(3)に固定され、該中袋(2)の他方の被収納物取り出し側には、被収納物(4)を取り出すための取出口部(2b)を閉塞するための再密封手段が設けられていることを特徴とする容器。

【請求項2】 前記容器本体(3)は、中袋(2)の取出口部(2b)を、容器本体(3)内に収納させる収納状態(A)と、容器本体(3)から突出させて被収納物(4)が取り出せる取出状態(B)とに変更自在に設けられている請求項1に記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、粒ガムやサプリメント錠剤等の被収納物の携行に優れた容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来、粒ガム等の粒状菓子やサプリメント錠剤等の粒状の複数の被収納物は、インジェクション成型により成形された容器や、合成樹脂のシート成型により成形された容器や、スクリューキャップ付きボトルに直接収納されている場合が多い。

【0003】 しかしながら、前記それぞれの容器は、剛性を有している点において、被収納物を保護できるため好ましいが、各被収納物が自由に移動して直接容器に当接するため、該被収納物が衝撃で破損する欠点があった。また、各被収納物は容器内で、互いの当接による衝撃でも破損する場合もあった。特に、粒ガムやサプリメント錠剤は、容器に入れて携行する場合が多く、かかる場合には前記問題が顕著である。しかも、被収納物を、前記インジェクション成型やシート成型により成形された容器に直接収納するだけでは、密封性に劣るため、湿気等により品質が低下するおそれもあった。

【0004】 そこで、本発明は上記問題を解決すべくなされたもので、再密封可能にして密封性を向上させ、携行時等に、各被収納物が不用意に移動して破損することなく、且つ、被収納物の保護性に優れた容器を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記課題を解決すべくなされたものであり、その特徴は、剛性を有する容器本体(3)と、可撓性を有するフィルムから袋状に形成され、且つ、複数の被収納物(4)が収納された中袋(2)とを備え、該中袋(2)は容器本体(3)内に収納されると共に、中袋(2)の一方側は容器本体(3)に固定され、該中袋(2)の他方の被収納物取り出し側には、被収納物(4)を取り出すた

めの取出口部を開塞するための再密封手段が設けられていることにある。

【0006】 そして、中袋(2)は、可撓性を有するフィルムから構成されているため、被収納物(4)が多数個収納されている場合は無論、少なくとも中袋(2)は、被収納物(4)の個数に応じて変形して被収納物(4)に接触し、各被収納物(4)が自由に移動するのを拘束する。この結果、各被収納物(4)が容器本体(3)に直接接触することなく、また、各被収納物(4)同士の衝突を少なくでき、被収納物(4)が衝撃で破損するのを防止できる。

【0007】 また、容器本体(3)は剛性を有することから、各被収納物(4)を外部の衝撃等から保護することができる。また、再密封手段が設けられていることから、中袋(2)の開封後も、中袋(2)の密封状態を維持することが可能となる。尚、剛性を有する容器本体(3)とは、可撓性を有する中袋(2)よりも硬質の材質材料からなるものをいう。

【0008】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態について説明する。図1及び図2は本発明の第一実施の形態の容器を示す。1はプラスチックシートを屈曲形成してなる容器本体としての剛性を有する外ケース(3)と、該外ケース(3)に収納される中袋(2)を備える容器である。尚、中袋(2)には、例えば多数の粒ガムやサプリメント錠剤等の粒状の被収納物(4)が収納されている。

【0009】 前記外ケース(3)は、例えば厚さ0.15～0.5mm程度のポリプロピレン又はポリエチレンテレフタレート(APET)等からなる一枚又は複数枚のプラスチックシートから形成されている。外ケース(3)は、前後壁部5a、5bと、該前後壁部5a、5bの両縁から屈曲線(黒線)6を介して屈曲された両側壁部7と、前記前後壁部5a、5bの一端縁からそれぞれ黒線9aを介して接近する方向に傾斜する揺動部8と、それぞれの揺動部8の縁から黒線9bを介して延設され且つ前記中袋(2)の一方側(一端部)2aを挟持して固定する連結部11とを備えている。

【0010】 尚、前記両側壁部7の一端(揺動部8側)7aは、前後壁部5a、5bの一端縁(黒線9a)の位置よりも短くなっている。ここに、前後壁部5a、5bの一端部には、互いに離間する方向に弹性変形可能な変形許容部5cが形成されている。また、連結部11には吊り下げ用の係止孔11aが形成されている。

【0011】

前記揺動部8の幅長W1は、前後壁部5a、5bの幅長W2よりも小さく設定されている。また、揺動部8は、外ケース(3)の外側に突出して中袋(2)を収納する収納状態A(図2(イ)参照)と、外ケース(3)の内側に突出して中袋(2)の他方側を外ケース(3)から突出させて被収納物(4)が取り出せる取出状態B(図2(ロ))とに変更自在に設けられている。

【0012】 尚、中袋(2)の収納状態Aにおいて、その中

袋2の他端側(被収納物4の取り出し側)は、外ケース3内に没入するようになっている。ここで、前記揺動部8及び連結部11により変更手段が構成されている。

【0013】外ケース3の他端は開口されており、その開口部3aを開塞できるように、蓋部10が野線10aを介して後壁部5bに屈曲自在に連結されている。なお、開口部3aを開塞する蓋部10を接地させた場合に、外ケース3を自立させることが可能になっている。

【0014】中袋2は、例えばガスバリヤー性を有する積層フィルム13a, 13bから袋状に形成されたもので、積層フィルムとしては、外側層として、延伸ポリエチレンテレフタレートフィルム、延伸ナイロンフィルム、延伸ポリプロピレン(OPP)フィルムが挙げられる。中間層として、ガスバリヤー性を有するアルミニウム層またはEVOH(エチレン-ビニルアルコール共重合体)層等からなるフィルム等を有し、内側層として、ヒートシール性を有する未延伸ポリプロピレン(CPP)またはポリエチレン系樹脂(LDPE等)等のフィルムが挙げられる。また、防湿性のみが必要な場合は、OPPとCPPやLDPE等の積層フィルムでも良い。更に、外側層に外ケース3との接着性を良くするコーティング等を施しても良い。

【0015】そして、前記フィルムの4辺はヒートシール等され、他方側には、両方のフィルムを密着状に封止できる再密封手段としての合成樹脂製の咬合具(チャック)12a, 12bが、中袋2の内側で且つ幅方向全長にわたって設けられている。また、前記外ケース3の連結部11で中袋2の一端部2aを挟持固定する手段としては、超音波シール方法等の公知の手段が採用できる。

【0016】次に、前記容器の使用方法について説明する。先ず、蓋部10を解放して、図2(イ)に示す連結部11を摘んで押し込むと、収納状態Aにある両方の揺動部8は、前後壁部5a、5bの変形許容部5cを弹性変形させて押し抜げると共に適度に湾曲するため、野線9aを支点にして揺動し、図2(ロ)に示す如く、揺動部8を取出状態Bに容易に位置変更させることができる。かかる揺動部8の位置変更により、中袋2の全体を外ケース3の開口部3a側に押し出すこととなり、中袋2の他端部は、外ケース3の開口部3aから突出する。

【0017】そして、その中袋2の突出部で且つチャック12a, 12bよりも外側を切断して開封し、チャック12a, 12bの係合を解除することにより、中袋2の突出部分を取出口部2bとして開口させ、所望個数の被収納物4を容易に取り出すことができる。

【0018】前記中袋2を収納する場合には、チャック12a, 12bを係合させて密着状態にした後に、前記とは反対に連結部11を引っ張ると、取出状態Bにある揺動部8は、元の収納状態Aに復元する。そのときに中袋2も内側に移動することとなり、その取出口部が外ケース3内に完全に没入して収納される。

【0019】以上のように、第一実施の形態の容器は、中袋2の開封後も、チャック12a, 12bを係合させることにより、取出口部2bを密着して閉塞することができると共に、中袋2はガスバリヤー性等を有していることから、密封性に優れ、被収納物4が酸素や湿気により、品質が低下するのを防止できる。

【0020】また、剛性を有する外ケース3により、中袋2及び中袋2内の被収納物4を保護できる。しかも、被収納物4は可撓性を有する中袋2に収納されていることから、中袋2は被収納物4に両側から接触するため、被収納物4の個数とは無関係に、各被収納物4が不用意に移動し難くなり、被収納物4が互いに衝突したり、外ケース3に当接したりして被収納物4が破損するのを防止できる。

【0021】図3及び図4は本発明の第二実施の形態を示す。本実施の形態は、容器本体としての外ケース3が合成紙等の厚紙類から形成され、底壁部14に前記中袋2の一端部2aが固定されている。中袋2のシート片13a, 13bは、外ケース3の内面に固着されておらず、自由に変形して被収納物4を保持しているのは、前記第一実施の形態と同様である。

【0022】蓋部10は前壁部5aから長く延設され、該蓋部10を屈曲させることにより、例えば、後壁部5bの半分以上を被覆できるようになっている。そして、蓋部10に設けられた係止凸部15が、後壁部5bに形成された切り込み16に係合可能になっている。

【0023】前記中袋2の他端部は、取出口部2bとして外ケース3から突出しているが、蓋部10の係止凸部15を後壁部5bの切り込み16に係合させた際には、取出口部2bを屈曲させ、蓋部10で折り疊んで被覆することができる(収納状態A)。係止凸部15は、蓋部10に切り込み線20を形成すると共に、蓋部10の先端に野線18を介して折り返し片19を内側に屈曲させることにより、突出形成することができる。また、蓋部10の両側には、野線21を介して内側に屈曲されるサイド片22がそれぞれ形成されている。

【0024】尚、前記取出口部2aには、前記チャック12a, 12bが設けられている。また、両側部7はガセット折りされ、断面形状が三角形状を呈している。

【0025】本実施の形態では、蓋部10を解放すると中袋2の取出口部2bを露出させた取出状態Bとすることができる(図4(ロ)参照)。しかも、蓋部10は、長く設けていることから、その取出状態時に、平坦な受け部25を形成することができ、中袋2から取り出した被収納物4を、該受け部25に一旦取り出して載置することができる。しかも、折返片19及びサイド片22が三方から上方に立ち上がった状態となることから、受け部25上の被収納物4が、不用意に転げ落ちたり、滑り落ちたりするのを防止できる。

【0026】図5は、本発明の第三実施の形態を示す。

本実施の形態は、容器本体3が内外二重筒状のケースから構成されたものである。即ち、一方のケース（内ケース）27側に中袋2の一端部が固定されている。他方のケース（外ケース）28は、内ケース27に対して出退できるように移動自在になっている。従って、外ケース28を引き出した位置が収納状態Aで、押し込んだ位置が取出状態Bとなる。

【0027】外ケース28の両側には、フック部29aを先端に有するストッパー片29が突設されている。該ストッパー片29を内ケース27の側壁部27aに形成された切り込み27bに挿通することで、外ケース28を引き出した際に、フック部29aを内ケース27の側壁部27aに係止させることにより、外ケース28の脱落を防止している。

【0028】図6は、本発明の更に他の実施の形態を示す。即ち、同図（イ）に示す本実施の形態は、前記第一実施の形態における外ケース3の裏面に複数枚の捨紙30を収納するためのシート片31を接着することにより、ポケット部を形成したものである。そして、各捨紙30が取り出せるように、外ケース3には、取出開口32が形成されている。かかる場合には、例えば、被収納物4がガム等の場合に、使用済みのガムを前記捨紙30に包んで廃棄でき便利である。

【0029】図6（ロ）は、容器本体3の前壁部5aを円弧状に形成したものを示し、同図（ハ）は、容器本体3の前壁部5a両側を円弧状に形成したものを示す。尚、容器本体及び中袋の形状及び大きさは、特に限定されるものではなく、容器本体の断面形状は、六角形状、三角形状や精円形状であっても良く、任意の形状が可能である。

【0030】

【発明の効果】以上のように本発明は、中袋は容器本体内に収納されると共に、中袋の一方側は容器本体に固定され、該中袋の他方の被収納物取り出し側には、被収納物を取り出すための取出口部を閉塞するための再密封手段が設けられているので、密封性優れ中袋の開封後でも、長期にわたって被収納物の品質を良好に維持できると共に、被収納物が破損したりするのを防止できる。従って、特に、酸素や湿気を嫌う粒ガム、粒菓子やサプリメント錠剤等のような常備する被収納物を携行するのに最適である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施の形態における一部破断を含む容器の斜視図である。

【図2】同（イ）は中袋を容器本体に収納した状態の断面斜視図、（ロ）は中袋を容器本体から突出させた状態の断面斜視図である。

【図3】本発明の第二実施の形態を示す容器の斜視図である。

【図4】同（イ）は断面図、（ロ）は被収納物を取り出した斜視図である。

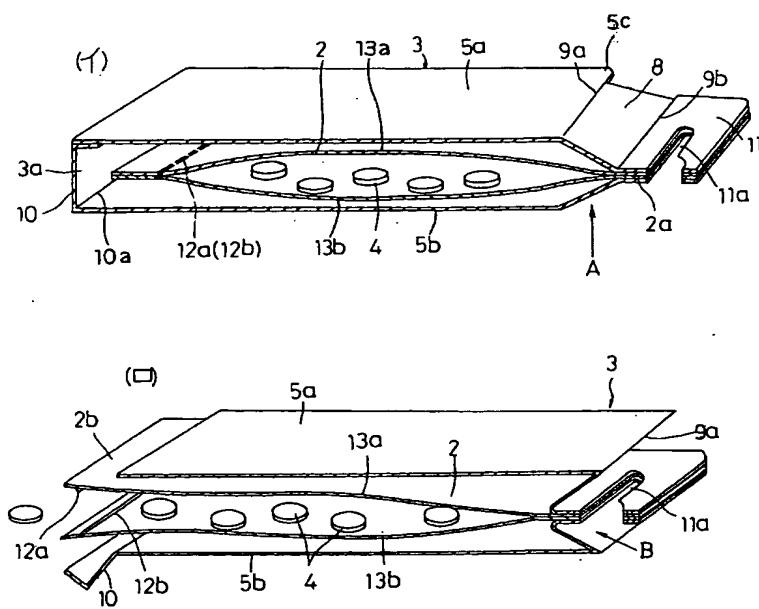
【図5】本発明の第三実施の形態を示し、（イ）は中袋を容器本体に収納した状態の斜視図、（ロ）は中袋を容器本体から突出させた状態の断面斜視図である。

【図6】本発明の他の実施の形態をそれぞれ示し、（イ）は全体斜視図、（ロ）及び（ハ）は、断面図である。

【符号の説明】

2…中袋、2b…取出口部、3…容器本体、4…被収納物、A…収納状態、B…取出状態

【図2】



【図3】

